

Title	聖学院大学総合研究所活動報告（1999年～20002年）
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No.26 別冊, 2003.3 : 17-81
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4131
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

I 総合研究所の設置理念と組織

(1) 聖学院大学総合研究所の設置理念と沿革

聖学院大学総合研究所は、大学設置とともに1988年4月に創設された。今日の学問的状况のなかで、研究領域として、「政治経済」「科学と教育」「キリスト教と文化」「語学」「日本・アングロアメリカ」「組織神学」「日韓現代史研究」の7つを掲げ、各研究センターでは、それぞれの領域の諸問題を学問的に研究・深化させるとともに、諸学問間の対話を深め総合することをめざしている。

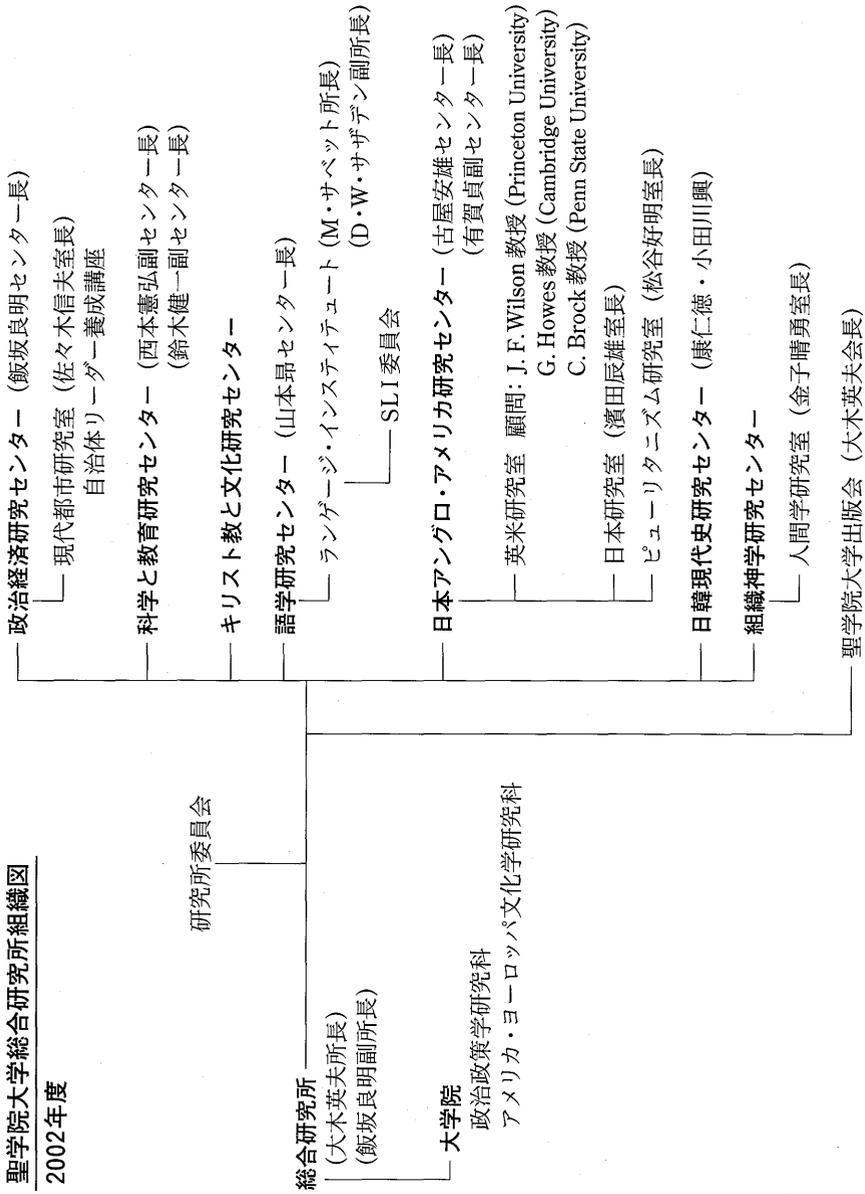
また各研究センターの共同研究プロジェクトを継続させ、資料の蓄積などを目的として、「日本研究室」、「英米研究室」、「現代都市研究室」、「ピューリタニズム研究室」がそれぞれ設置されている。

教育補助活動事業として、1988年に、語学研究センターのもとに語学研修センター「ランゲージ・インスティテュートSLI」を、1991年には「聖学院大学出版会」を設置し、研究成果を公開・発表する機能も果たしている。1994年度からは、自治体職員を対象とした研修プログラム「自治体リーダー養成講座」を開講している。

総合研究所は、1996年4月に設置された聖学院大学大学院の研究部門に位置づけられ、大学院としての研究活動を推進し、「政治経済研究センター」では、大学院政治政策学研究科と共同で、埼玉県重点施策を政策企画・実施・評価の観点から研究する「埼玉地域政策研究」を開講し、また上記の「自治体リーダー講座」を大学院講座として開催している。1999年度に開設された「アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科」とは、「日本アングロ・アメリカ研究センター」が共同で、海外から著名な学者を招聘し、大学院授業、研究集会を開催している。

聖学院大学総合研究所組織図

2002年度



(2) 教員組織

総合研究所委員会

所長	大木 英夫 (理事長, 1988年4月1日～現在)
副所長	松川 成夫 (学長, 1999年4月1日～2000年3月31日)
副所長	飯坂 良明 (学長・大学院長, 2000年4月1日～現在)
委員	近藤 勝彦 (宗教センター所長, 1988年4月1日～現在)
委員	金子 晴勇 (副大学院長, 2000年4月1日～現在)
委員	阿久戸光晴 (大学副学長, 1995年4月1日～現在)
委員	山本 昂 (大学副学長, 1999年4月1日～現在)
委員	阿部 洋治 (宗教主任, 1988年4月1日～現在)
委員	菊地 順 (宗教主任, 1998年4月1日～現在)
委員	大木 雅夫 (政治政策学研究科長, 2000年4月1日～現在)
委員	古屋 安雄 (アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科長, 2001年4月1日～現在)
委員	澁谷 浩 (政治経済学部長, 1996年4月1日～2002年3月31日)
委員	標 宣男 (政治経済学部長, 2002年4月1日～現在)
委員	寺田 正義 (人文学部長, 2000年4月1日～現在)
委員	ウィリアム・G・クレラ (国際センター所長, 1988年4月1日～現在)

所員

聖学院大学の教員は、全員総合研究所の所員となる(総合研究所規程第7条)。

研究所教員

教授	金子 晴勇 (2002年4月1日～現在)
教授	富澤 賢治 (1999年4月1日～2000年3月31日)
教授	郡司 篤晃 (1998年4月1日～2000年3月31日)
教授	大木 雅夫 (1999年4月1日～2000年3月31日)
教授	荒木 忠男 (1996年4月1日～2000年2月)

助教授	エバート・オズバーン (1999年4月1日～現在)
助教授	森田美千代 (2000年4月1日～現在)
助教授	大澤 麦 (2002年4月1日～現在) (1997年4～2002年3月 専任講師)
助教授	深井 智朗 (2002年4月1日～現在) (1997年4～2002年3月 専任講師)
特任助教授	松谷 好明 (2002年10月1日～現在) (2002年4月1日～2002 年9月30日 客員教授)
専任講師	ブライアン・アシュレー (1990年4月1日～現在)
専任講師	メヘラン・サベット (2000年4月1日～現在)
専任講師	ディーン・サザデン (2001年4月1日～現在) (助手 1997年4 月1日～2001年3月31日)
専任講師	シュエ土戸真理 (2001年4月1日～2002年11月6日)
専任講師	近藤 存志 (2002年4月1日～2003年3月31日)
助 手	国分 道雄 (2002年4月1日～2003年3月31日)
客員教授	恒松 制治 (1996年1月～現在)
客員教授	佐々木信夫 (1994年4月1日～現在)
客員教授	中邨 章 (2000年4月1日～現在)
客員教授	岩島 久夫 (2001年4月1日～現在)
客員教授	田中 豊治 (1996年4月1日～現在)
客員教授	西田 善夫 (1996年4月1日～現在)
客員教授	濱田 辰雄 (1997年4月1日～現在)
客員教授	小林 良彰 (2000年4月1日～現在)
客員教授	康 仁徳 (1999年7月1日～現在)
客員教授	池 明観 (1996年4月1日～現在)
客員教授	柏木 昭 (2002年4月1日～現在)
客員教授	山形 和美 (2002年4月1日～現在)
客員教授	小田川 興 (2002年4月1日～現在)
客員教授	J. David Reid (在外)
客員教授	今井 宏 (2000年4月1日～2002年10月)
客員教授	増田 文男 (1999年4月1日～2000年3月31日)

特任研究員

シュー土戸ポール (2002年4月1日～2003年3月31日)

SLI 講師

- 所長 メヘラン・サベット (2002年4月1日～現在)
- 副所長 ディーン・サザデン (2001年4月1日～現在)
- 講師 ブライアン・アシュレー (1990年4月1日～現在)
- 委託契約講師 クレイグ・カール (2001年4月1日～現在) SLI, SEP
- 委託契約講師 ショーン・ウェイマン (2002年4月1日～2002年7月31日)
小学校, SLI
- 委託契約講師 ジョン・プロフェルド-ワトソン (2002年9月1日～現在)
- 非常勤講師 カーリン・エアハート (年間) 幼稚園・小学校
- 非常勤講師 デイビッド・マグヌソン (年間)
- 非常勤講師 ジョン・クラグストン (2002年9月1日～現在)

Research Assistant: RA

- 久保島理恵 (ニーバー研究) (2001年4月1日～現在)
- 高 萬松 (ピューリタニズム研究) (2001年4月1日～現在)
- 原田 貴士 (EU 研究) (2001年4月1日～現在)
- 佐藤 貴史 (市民社会研究, 日本研究) (2002年4月1日～現在)

II 研究活動と研究成果公開

(1) 講演会・シンポジウム

総合研究所では、研究活動の公開を目的とし、また内外の研究者と研究における交流を深めるという目的から、毎年、数回、学術シンポジウム、国際シンポジウムなど研究集会を開催している。1999年から2002年にかけて開催した講演会・シンポジウムは下記のとおりである。

1. 1999年4月20日 学術シンポジウム「都市型高齢福祉の課題と展望」(埼玉県県民健康センター大ホール)
基調講演： 岡澤 憲英 (早稲田大学教授)
都市提言： 佐々木信夫 (聖学院大学総合研究所客員教授)
パネリスト：村田 幸子 (ジャーナリスト)
大塚 健司 (埼玉県健康福祉部次長)
斉藤 弥生 (大阪外国語大学助教授)
牛津 忠信 (聖学院大学教授)
コーディネータ：佐々木信夫
2. 1999年5月28日 講演会「ニーバー以降のアメリカ社会倫理をめぐって」(池袋・東京芸術劇場大会議室)
講演者：セオドア・R・ウェーバー (エモリー大学名誉教授)
3. 1999年10月28日 シンポジウム「クロムウェルと現代——21世紀への視座」(池袋・東京芸術劇場中会議室)
基調講演： 今井 宏 (元東京女子大学教授)
パネリスト：澁谷 浩 (聖学院大学教授)
岩井 淳 (静岡大学助教授)
大澤 麦 (聖学院大学総合研究所専任講師)

コーディネータ：大木英夫（聖学院大学総合研究所所長）

4. 2000年2月12日 国際シンポジウム「南北朝鮮の現状を語る——統一に向かう朝鮮半島」

パネリスト：康 仁徳

（聖学院大学総合研究所客員教授，元統一部長官）

小田川 興（朝日新聞社編集委員）

司会： 鐸木 昌之（聖学院大学政治経済学部助教授）

5. 2000年3月31日 国際シンポジウム「医療と福祉における市場の役割と限界——イギリスの経験と日本の課題」（東京フォーラム会議室）

講演者：

ハワード・グレナスター（LSE教授）

“The United Kingdom’s New Health and Welfare Policy: A Changed Role for Markets.”

ジュリアン・ルグラン（LSE教授）

“The State, the Market and Welfare”

マーティン・ナップ（LSE教授）

“Commissioning for Best Value and Quality: Social Care Markets in England.”

ディスカッサント：

武川 正吾（東京大学助教授）

郡司 篤晃（聖学院大学総合研究所教授）

京極 高宣（日本社会事業大学学長）〔英語・同時通訳〕

6. 2000年5月16日 国際シンポジウム「ハイデルベルクにおけるアングロサクソン研究の伝統——トレルチ・ウェーバー・イエリネク」（池袋・東京芸術劇場大会議室）

講演者：

フリードリヒ・W・グラーフ（ミュンヘン大学教授）

ディスカッサント：

田中 豊治（聖学院大学大学院客員教授）

阿久戸光晴（聖学院大学大学院助教授）
梅津 順一（聖学院大学政治経済学部教授）
柳父 圀近（東北大学法学部教授）〔英語・ドイツ語：通訳〕
コーディネータ：大木英夫（聖学院大学総合研究所所長）
司会：深井 智朗（聖学院大学総合研究所専任講師）

7. 2000年4月25日 学術シンポジウム「東京圏の未来 さいたまの将来」
（大宮・ソニックシティ国際会議室）

基調講演：「東京圏の未来 さいたまの将来」
中邨 章（明治大学教授）
都市提言：「市民意識調査にみる合併・政令市づくり」
大森 達也（聖学院大学政治経済学部助教授）
パネリスト：小林 良彰（慶応義塾大学法学部教授）
井上 繁（日本経済新聞社論説委員）
大田 弘子（政策研究大学院大学助教授）
平 修久（富士総合研究所主任研究員）
阪本 克己（埼玉中央青年会議所直前理事長）
司会： 中邨 章（前掲）

8. 2000年9月15日 国際シンポジウム「市民とは何か——現代市民社会論
の現状と課題」（池袋・メトロポリタンプラザ会議室）

講演者：
マックス・スタックハウス（プリンストン神学大学院教授）
スティーヴン・カールバーク（ボストン大学助教授）
古矢 旬（北海道大学大学院教授）
ディスカッサント：
田中 豊治（聖学院大学大学院客員教授）
大澤 麦（聖学院大学総合研究所専任講師）
司会：大木 英夫（聖学院大学総合研究所所長）

9. 2001年4月26日 学術シンポジウム「政令指定都市の課題と展望——さい
たま市の将来を考える」（大宮・ソニックシティ小ホール）

記念講演：「さいたま市誕生の意義」

松本 英昭（財団法人自治総合センター理事長）

基調講演：「21世紀の都市像——政令指定都市」

佐々木信夫（聖学院大学総合研究所客員教授）

都市提言：「これからのさいたま市」

中邨 章（聖学院大学総合研究所客員教授）

パネリスト：

松本 英昭（前掲）

中邨 章（前掲）

竹内佐和子（東京大学助教授）

樋爪龍太郎（ぶぎん地域経済研究所社長）

コーディネータ：佐々木信夫

10. 2001年11月23日 国際シンポジウム「大塚久雄における歴史と現代——
没後五年を記念して」（メトロポリタンプラザ会議室）

パネリスト：

関口 尚志（フェリス女学院大学教授）

柳父 圀近（東北大学教授）

梅津 順一（聖学院大学教授）

ヴォルフガング・シュベントカー（デュッセルドルフ大学講師）

司会：高村 幸治（岩波書店第一編集部部長）

通訳：近藤 正臣（大東文化大学教授）〔英語・通訳〕

11. 2002年4月18日 学術シンポジウム「財政危機下の大都市経営を考える」
（大宮ソニックシティ小ホール）

基調講演：「大都市財政をめぐる現状と課題」

井堀 利宏（東京大学教授）

都市提言：「大都市経営への財政提言——さいたま市の改革」

佐々木信夫（聖学院大学総合研究所客員教授）

パネル・ディスカッション：

井堀 利宏（前掲）

宮脇 淳（北海道大学大学院教授）

小幡 純子 (上智大学教授)

鈴木 宮夫 (埼玉県副知事)

コーディネータ：佐々木信夫

12. 2002年6月29日 国際シンポジウム「戦後日米関係の回顧と将来の展望」
(池袋・メトロポリタンプラザ会議室)

基調講演：「グローバル時代の日米関係」

入江 昭 (ハーバード大学教授)

講演： 「日米関係と戦争の記憶」

油井大三郎 (東京大学大学院総合文化研究科教授)

講演： 「東アジアの国際秩序『日米関係』」

李 鍾元 (立教大学法学部教授)

司会： 有賀 貞 (聖学院大学大学院教授)

13. 2003年2月15日 国際シンポジウム「東アジアの平和と民主主義——日
韓関係を軸に——」(池袋・メトロポリタンプラザ会議室)

基調講演：池 明観 (翰林大学校日本学研究所長)

パネリスト：康 仁徳 (聖学院大学総合研究所客員教授，元統一部
長官)

清田 治史 (朝日新聞社総合研究本部本部長)

司会： 小田川 興 (聖学院大学総合研究所客員教授)

(2) 共同研究

総合研究所では学内外の各教員・研究者のそれぞれの専門分野での研究を重んじながらそれぞれの研究成果を持ち寄り総合的に研究する「共同研究」を推進している。

「共同研究規程」に基づき研究代表者から申請された「共同研究計画」を総合研究所委員会で審議・決定し各プロジェクトでは年度終了時点で「共同研究報告書」を提出し総合研究所委員会で成果の評価を実施している。

1999年度から2002年度までに下記の共同研究プロジェクトが活動した現在も定期的に研究が進められている。

なお研究組織は2002年度のものである。また研究発表者の所属肩書きは発表時のものである。

1 語学教育研究（1999～2002年）

英語教育を中心に研究する。コミュニケーションのための道具としての英語をいかに使える英語として学習するか。そのためのカリキュラム教材教授法について研究する。

〈研究組織〉

山本 昂	聖学院大学・副学長
須山名保子	聖学院大学人文学部日本文化学科・教授
江川美知子	聖学院大学人文学部欧米文化学科・教授
K・O・アングスン	聖学院大学人文学部欧米文化学科・教授
D・バーガー	聖学院大学人文学部日本文化学科・教授
鈴木 洋児	聖学院大学人文学部人間福祉学科・教授
村上 公久	聖学院大学政治経済学部政治経済学科・助教授
谷口隆一郎	聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科・助教授
加曾利 実	聖学院大学人文学部欧米文化学科・助教授

松本 祐子	聖学院大学人文学部児童学科・助教授
氏家 理恵	聖学院大学人文学部人間福祉学科・助教授
E・D・オズバーン	聖学院大学総合研究所・助教授
B・アシュレー	聖学院大学総合研究所・専任講師
M・サベット	聖学院大学総合研究所・専任講師
D・サザデン	聖学院大学総合研究所・専任講師
R・ロング	聖学院大学・委託講師
D・マグヌソン	聖学院大学・委託講師
椿 まゆみ	聖学院大学・委託講師
P・A・リダン	聖学院大学・委託講師
S・ボイド	聖学院大学・委託講師
K・ヒル	聖学院大学・委託講師
E・C・カール	聖学院大学総合研究所・委託講師

- (1) 1999年11月9日 「Extensive Reading Program」
サイモン・エヴァンス (Simon Evans, 秀明英光高等学校アシスタント・ディレクター)
- (2) 2000年1月19日 「英語の国際化／多様化と日本の英語教育」
本名 信行 (青山学院大学国際政治経済学部教授)
- (3) 2000年7月11日 「Speaking Tests- Cambridge and other Models」
サイモン・ヒンバリー (Simon Himbury, 秀明大学講師)
- (4) 2001年1月15日 「21世紀の英語教育の方向」
鈴木 孝夫 (慶應義塾大学名誉教授)
- (5) 2002年2月8日 「これからの英語教育の方向をさぐる——園児から大学生までの一貫教育——」
田辺 洋二 (早稲田大学教授)
- (6) 2002年7月1日 「大学で実施したニーズ・アナリシスについて——その読みと教育現場へのフィードバック——」
寺田 正義 (聖学院大学人文学部欧米文化学科教授)
E・D・オズバーン (聖学院大学総合研究所助教授)
- (7) 2003年2月10日 「異文化間コミュニケーション能力におけるクリティカルシンキングの重要性」

近藤 勝彦	東京神学大学・教授
阿久戸光晴	聖学院大学政治経済学部政治経済学科・教授
梅津 順一	聖学院大学政治経済学部政治経済学科・教授
池 明観	翰林大学日本学研究所・所長
康 仁徳	聖学院大学総合研究所・客員教授
柴田 史子	聖学院大学人文学部欧米文化学科・助教授
富沢 賢治	聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科・教授
古屋 安雄	聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科長・教授
深井 智朗	聖学院大学総合研究所・助教授
大澤 麦	聖学院大学総合研究所・助教授
川添未央子	聖学院大学政治経済学部・専任講師

1999年（第3年度）

- (1) 4月12日 「テーマとしての国家と宗教——内村・南原・大塚」
柳父 圀近（東北大学教授）
- (2) 6月14日 「ロシアにおける市民と国家」
肥前 栄一（新潟大学教授）
- (3) 7月12日 「韓国における市民社会と国家」
池 明観（翰林大学日本学研究所・所長）
- (4) 10月18日 「ロックの寛容論と市民的自由」
大澤 麦（聖学院大学総合研究所・助教授）
- (5) 11月15日 「日本における市民社会の形成とNPO」
富沢 賢治（聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科・教授）
- (6) 12月13日 「現代における公共性の概念と市民社会——アーレントを中心に」
川崎 修（立教大学教授）
- (7) 1月17日 「アジアにおける市民社会と国家」
石塚雅彦（日本経済新聞社）
- (8) 2月 「近代『市民社会』概念について——第1期研究のまとめとして」

田中 豊治 (聖学院大学総合研究所・客員教授)
大澤 麦 (聖学院大学総合研究所・助教授)

2000年度 (第2期第1年度)

- (1) 5月15日 「ロールズの正義論と公共性」
川本 隆史 (東北大学文学部教授)
- (2) 6月19日 「Max Stackhouse, Political Economy をめぐって」
深井 智朗 (聖学院大学総合研究所・助教授)
相澤 一 (聖学院大学・特任講師)
古屋 安雄 (聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学
研究科長・教授)
- (3) 7月17日 「現代のグローバル市民社会論」
川原 彰 (中央大学法学部教授)
- (4) 9月15日～16日 国際シンポジウム
「アメリカにおける市民社会論」
Max Stackhouse (プリンストン神学大学院教授)
「アメリカにおける市民の起源」
Stephen Kalberg (ボストン大学助教授)
「アメリカの市民・日本の市民」
古矢 旬 (北海道大学大学院教授)
- (5) 11月20日 「イギリスにおける福祉国家論」
毛利 健三 (専修大学教授)
- (6) 12月11日 「イングランド革命と国家の変容」
今井 宏 (聖学院大学総合研究所・客員教授)
- (7) 2月19日 「イギリスにおける市民社会の歴史」
関口 尚志 (フェリス女学院大学教授)

2001年度

- (1) 4月16日 「ホッブズと市民社会」
田中 浩 (一橋大学名誉教授)
- (2) 6月4日 「イギリス革命とパトニー論」
大澤 麦 (聖学院大学総合研究所・専任講師)

- (3) 7月2日 「スキナーとイギリス革命」
梅津 順一（聖学院大学政治経済学部政治経済学科・教授）
- (4) 11月23日 「大塚久雄における歴史と現代」
Wolfgang Schwentker
関口 尚志（フェリス女学院大学教授）
柳父 罔近（東北大学教授）
梅津 順一（聖学院大学政治経済学部政治経済学科・教授）
- (5) 12月10日 「現代自由主義とジョン・ロック——寛容論をめぐる」
大澤 麦（聖学院大学総合研究所・助教授）
- (6) 1月21日 「日本における市民社会思想と公共性」
野沢 敏治（千葉大学）

2002年度

- (1) 4月8日 「マルクスの日本における受容——三木清を中心に」
内田 弘（専修大学）
- (2) 5月13日 「日本のリベラリズムにおける市民社会論——長谷川如是閑」
田中 浩（一橋大学名誉教授）
- (3) 6月10日 「大塚史学における「市民社会」——方法論的視座から」
田中 豊治（聖学院大学総合研究所・客員教授）
- (4) 6月29日 「戦後日米関係の回顧と将来の展望」（前出）
入江 昭（ハーバード大学教授）
油井大三郎（東京大学大学院教授）
李 鍾元（立教大学教授）
有賀 貞（聖学院大学大学院教授）
- (5) 7月8日 「寄留者か市民か——パブリック・セオロジーの共同体論」
深井 智朗
- (6) 10月21日 「ホッブズ『哲学者と法学徒との対話』」
田中 浩（一橋大学名誉教授）
- (7) 3月3日 「市民社会と神道」
池田 昭（和歌山大学名誉教授）

3 埼玉県の中核都市圏形成及び都市政策に関する調査研究

〈研究組織〉

佐々木信夫	聖学院大学総合研究所客員教授・研究代表
大木 英夫	聖学院大学総合研究所所長・研究顧問
恒松 制治	聖学院大学総合研究所客員教授・研究顧問
中邨 章	聖学院大学総合研究所客員教授・研究顧問・都市制度論
平 修久	聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科教授・都市及び地域計画（2000年度から）
大森 達也	聖学院大学政治経済学部政治経済学科助教授・都市政策論
馬場 健	聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科専任講師・都市制度論
大澤 勇	埼玉県総合政策部計画調整課・研究員
林 秀平	埼玉県総合制作部改革政策局・研究員
橘 裕子	埼玉県総合政策部改革政策局・研究員
稲葉 尚子	埼玉県総合政策部改革政策局・研究員
北村 芳之	埼玉県総合政策部文化振興課・研究員
岡部 敏行	彩の国さいたま人づくり広域連合自治人材開発センター・研究員
大内 美幸	さいたま市企画財政部企画調整課・研究員
秋山 稔	さいたま市財政課・研究員
倉林 克昌	さいたま市企画財政部企画調整課・研究員
諸橋 秀之	さいたま市廃棄物指導課・研究員
山本 敏雄	上尾市企画財政部政策企画室・研究員
尾形 京子	上尾市総合政策課・研究員
山下 英明	戸田市都市計画課・研究員
加藤 尚	(株)シーピーアール・研究員
田中 芳樹	A. R. C. 設計事務所・研究員

1999年度

(1) 1999年6月15日 「東京大都市圏の現状と将来のゆくえ」

平 修久（富士総合研究所主任研究員）

- (2) 1999年7月13日 「政令指定都市の課題」
佐々木 謙（仙台市健康福祉局次長）
- (3) 1999年10月12日 「英国における大都市制度の変遷」
馬場 健（地方自治研究所研究員）
- (4) 1999年11月30日 「合併に伴う事務機構の統合について」
石橋 茂（大宮市理事企画財政部長）
- (5) 2000年2月22日 「千葉市の政令指定都市への形成過程について——県と市・国との交渉過程を中心に——」
花島 孝行（千葉市企画調整局政策調整課主幹）

2000年度

- (1) 2000年6月6日 「政令指定都市の課題——横浜市の事例から——」
山崎 幹夫（横浜市企画局広域行政課課長）
- (2) 2000年7月14日 「都市自治体の人事行政」
稲継 祐昭（大阪市立大学助教授）
- (3) 2000年10月17日 「市町村財政の現状と課題——福岡県内市町村の例を中心として——」
赤松 俊彦（自治大臣官房文書課課長補佐）
- (4) 2000年12月6日 「我が国の公共部門における評価を進めるにあたっての課題」
古川 俊一（筑波大学社会工学系教授）
- (5) 2001年2月21日 「地方分権と政策法務」
山口 道昭（川崎市多摩区役所区民福祉部副主査）

2001年度

- (1) 2001年6月14日 「地方財政危機と改革」
青木 信之（埼玉県総合政策部長）
- (2) 2001年7月26日 「わが国地方財政の現状と課題——都市財政の展望——」
片桐 正俊（中央大学経済学部教授）
- (3) 2001年9月27日 「世界の財政再建手法に学ぶ——中央政府と地方政府は何をすべきか」

永久 寿夫 (PHP 総合研究所副理事・研究部長)

- (4) 2001年11月15日 「新税構想について」
宮脇 淳 (北海道大学大学院法学研究科 教授)
- (5) 2002年2月22日 「さいたま市の財政状況——政令市を視野に入れながら——」
岡田 哲夫 (さいたま市財政課長)

2002年度

- (1) 2002年7月3日 「政令指定都市制度のしくみと役割及び改革課題について」
金井 利之 (東京大学大学院法学政治学研究科・法学部助教授)
- (2) 2002年8月1日 「政令市の行政区について」
伊藤 和良 (川崎市総合企画局政策部)
- (3) 2002年9月26日 「大都市制度と政令指定都市の課題」
土岐 寛 (大東文化大学法学部教授)
- (4) 2002年11月28日 「自治型コミュニティと近隣自治体のかかわり」
間島 正秀 (法政大学社会学部教授)
- (5) 2003年2月14日 「さいたま市の指定都市化に伴う課題と行政区のあり方」
本田 弘 (日本大学法学部教授)

4 「自然の概念」についての学際的研究——われわれは「自然」をどう理解してきたのか (第1期1999～2001年)

これまでになされてこなかった「自然」についての学際的な研究。時代や地域学問分野的制限がされていない「包括的な」自然の定義についての作成と相互理解をめざし続く研究の基礎研究をめざす。研究成果は紀要・ニューズレターに掲載。

1999年から3年間で16回の研究会を開催。この間「サントリー文化財団」「地球環境財団」「住友財団」より研究助成金を受けた。最終年度は研究活動報

告書「自然の概念についての学際的研究」(A4判, 131頁, 2002年3月30日)を発行した。

〈研究組織〉

標 宣男	聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科教授・研究代表
大木 雅夫	聖学院大学大学院教授
黒木 章	聖学院大学人文学部日本文化学科教授
梅津 順一	聖学院大学政治経済学部政治経済学科教授
深井 智朗	聖学院大学総合研究所専任講師
遠山 益	聖学院大学人文学部人間福祉学科教授
荒川 裕子	静岡文化芸術大学助教授
中村 磐男	聖学院大学人文学部人間福祉学科教授
原 一子	聖学院大学人文学部欧米文化学科助教授

- (1) 1999年5月7日 「イマニュエル・カントにおける自然の問題——自然目的論と神の問題」
深井 智朗 (聖学院大学総合研究所専任講師)
- (2) 1999年6月29日 「キリスト教と近代自然科学——ニュートンとニュートン主義」
芦名 定道 (京都大学助教授)
- (3) 1999年9月3日 「翻訳学における自然の問題」
柳父 章 (桃山学院大学)
- (4) 1999年10月1日 「近代自然科学の成立事情」
渡辺 正雄 (東京大学名誉教授)
- (5) 1999年11月19日 「ギリシャ教父と自然世界—— sacramentalな自然観と人間中心主義」
土井 健司 (玉川大学専任講師)
- (6) 1999年12月17日 「比喩としての自然——古典期以前のギリシア文学における自然観の一側面」
佐野 好則 (東京都立大学助教授)
- (7) 2000年1月28日 「古代における自然の問題——ヘブライニズム」

手島 勲矢（立教大学非常勤講師）

- (8) 2000年6月9日 「現代技術と人工物環境——『安全性をめぐる』」
標 宣男（聖学院大学政治経済学部教授）
- (9) 2000年7月11日 「内村鑑三における『自然の神』と『歴史の神』」
梅津 順一（聖学院大学政治経済学部教授）
- (10) 2000年9月26日 「日本自然主義文学をめぐる」
黒木 章（聖学院大学人文学部教授）
- (11) 2000年11月7日 「生命をどこまで操作できるか——低温と生命」
遠山 益（聖学院大学人文学部教授）
- (12) 2000年12月19日 「イギリス・ロマン主義の風景画における自然の表現」
荒川 裕子（静岡芸術大学文化政策学部助教授）
- (13) 2001年1月30日 「2000年度の研究会のまとめ」
- (14) 2001年5月7日 「自然と自然法」
ホセ・ヨンパルト（上智大学名誉教授）
- (15) 2001年9月3日 「研究会のまとめ 報告書作成打合せ」
標 宣男・梅津 順一・黒木 章・深井 智朗
- (16) 2001年9月26日 「道(TAO)をめぐる自然観」
稲田 敦子（聖学院大学欧米文化学科教授）

5 ジョン・ロックの「政治哲学」とそれを支える福音理解

——ロック『パウロ書簡注解』の翻訳とロック思想の再構成——

（第1期 1995～1997年，第2期 1998～2000年，第3期 2001年～2003年）

1999年～2002年の4年間で計38回の研究会を実施した。『パウロ書簡注解』のうち『コリント人への第一の手紙』『コリント人への第二の手紙』『ローマ人への手紙』『エペソ人への手紙』の検討と翻訳に専心し研究成果を『紀要』に発表した。

〈研究組織〉

澁谷 浩 聖学院大学政治経済学部政治経済学科教授・研究代表
大澤 麦 聖学院大学総合研究所助教授

野呂 有子 日本大学文理学部英文学科教授
相澤 一 聖学院大学特任講師
川添美央子 聖学院大学非常勤講師

『コリント人への第一の手紙注解』(上) 『紀要』No.16
『コリント人への第一の手紙注解』(下) 『紀要』No.18
『コリント人への第二の手紙注解』 『紀要』No.19
『ローマ人への手紙注解』(上) 『紀要』No.21
『ローマ人への手紙注解』(中) 『紀要』No.23
『ローマ人への手紙注解』(下) 『紀要』No.25

6 グローバリゼーションの文脈における総合的日本研究

(第1期 1996～1998年, 第2期 1999～2001年, 第3期 2002～2004年)

日本を相対化し客観化する視座をグローバリゼーションの文脈におき21世紀における日本の位置づけ, そこにおける日本人の精神的課題を明らかにする。

〈研究組織〉

大木 英夫 聖学院大学総合研究所所長・研究代表
飯坂 良明 聖学院大学学長
鵜沼 裕子 聖学院大学人文学部日本文化学科教授
標 宮子 聖学院大学人文学部日本文化学科教授
黒木 章 聖学院大学人文学部日本文化学科教授
渡邊 正人 聖学院大学人文学部日本文化学科助教授
梅津 順一 聖学院大学政治経済学部政治経済学科教授
濱田 辰雄 聖学院大学総合研究所客員教授

- (1) 1999年5月17日 「森鷗外における純抵抗」
黒木 章 (聖学院大学教授)
- (2) 1999年7月5日 「静岡時代の山路愛山」
川崎 司 (聖学院大学専任講師)

- (3) 1999年9月20日 「古典としての古事記」
神野志隆光（東京大学教授）
- (4) 1999年11月29日 「前近代の日本の思想・宗教複合とキリスト教」
黒住 真（東京大学教授）
- (5) 2000年7月4日 「グローバリゼーションと日本文化」
阿部 美哉（國學院大学学長）
- (6) 2000年11月6日 「神道の間人観」
上田 賢治（國學院大学名誉教授）
- (7) 2001年3月12日 「古典文学に見られる人間観」
標 宮子（聖学院大学教授）
- (8) 2001年6月11日 「仏教の間人観」
菅野 覚明（東京大学助教授）
- (9) 2001年12月3日 「徳富蘇峰と内村鑑三」
梅津 順一（聖学院大学教授）
- (10) 2002年2月4日 「『日本のキリスト教』の問題点とその克服」
濱田 辰雄（聖学院大学総合研究所客員教授）
- (11) 2002年7月16日 「大内三郎と植村正久研究」
鵜沼 裕子（聖学院大学教授）
- (12) 2002年9月17日 「日本人の無常観」
竹内 整一（東京大学大学院教授）
- (13) 2002年11月19日 「GHQの宗教政策と戦後日本社会」
深井 智朗（聖学院大学総合研究所助教授）
- (14) 2003年2月21日 浄瑠璃における儒教的思想
井上 伸子（聖学院大学教授）

7 大学と地域社会（地域とアソシエーション）

〈研究組織〉

梅津 順一	政治経済学部政治経済学科教授 研究代表
富沢 賢治	政治経済学部コミュニティ政策学科教授 研究員・社会政策
飯島 康夫	政治経済学部コミュニティ政策学科助教授 研究員・地域開

発

柴田 武男 政治経済学部政治経済学科助教授 研究員・地域経済
牛津 信忠 人文学部人間福祉学科教授 研究員・地域福祉
清水 均 人文学部日本文化学科助教授 研究員・日本文化
柴田 史子 人文学部欧米文化学科助教授 研究員・アソシエーション論
結城 俊哉 人文学部人間福祉学科助教授 研究員・障害者福祉
山田麻由美 人文学部児童学科助教授 研究員・児童心理
増田 公香 人文学部人間福祉学科専任講師 研究員・コミュニティワー
ク

1999年度

- (1) 1999年5月12日 「ベンジャミン・フランクリンとアソシエーション」
梅津 順一（政治経済学部教授）
- (2) 1999年7月7日 「アメリカのボランティア・アソシエーションあれこれ」
柴田 史子（人文学部助教授）
- (3) 1999年11月10日 「精神障害者の地域生活ネットワーク」
結城 俊哉（人文学部助教授）
- (4) 1999年12月8日 「NPOの現状と課題——大学の役割との関わりで——」
山岡 義典（日本NPOセンター事務局長）
- (5) 2000年2月14日 「大学とNPOの現状と課題」
中村 陽一（都留文科大学助教授）

2000年度

- (1) 2000年5月18日 「NPOセンターとの協力体制について」
中村 陽一（都留文科大学助教授）
- (2) 2000年7月12日 「大学と地域のかかわりについて」
- (3) 2000年11月15日 「大学と地域社会を結ぶ——聖学院を基盤とするNPO構想」
富沢 賢治（政治経済学部教授）
- (4) 2000年11月29日 「大宮市におけるボランティア活動の現状と今後の課題」

金尾 美知子 (大宮市ボランティア連絡会会長)

- (5) 2001年2月28日 「アメリカの地域における成人保護サービス」
増田 公香 (人文学部専任講師)

2001年度

- (1) 2001年5月30日 「介護施設のサービスと経営効率」
瀬名 浩一 (政治経済学部助教授)
- (2) 2001年6月27日 「藤枝市の『市民活動の調査』ほか」 ((財)地方自治研究
機構との打合せ)
- (3) 2002年1月30日 「藤枝市市民活動調査結果について」
平 修久 (政治経済学部教授)

2002年度

- (1) 2002年4月17日 「地域通貨について」
柴田 武男 (政治経済学部助教授)
- (2) 2002年6月14日 「上尾市における市民活動——町内会・自治会とNPO」
内田 雅幸 (上尾市職員・聖学院大学大学院OB)
- (3) 2002年7月17日 「子育てネットワークの活動」
鈴木 玲子 (子育てネットワーク代表)
- (4) 2002年10月30日 「行政とNPOとの協働——上尾市の事例」
山崎 照正, 上山 英樹 (上尾市NPO担当)

8 組織神学研究

現代神学者の思想を取り上げ自立した神学思想を形成するためのキリスト教
弁証学を研究する。

〈研究組織〉

深井 智朗	聖学院大学総合研究所助教授・研究代表
大木 英夫	聖学院大学総合研究所所長
古屋 安雄	聖学院大学大学院教授

阿久戸光晴	聖学院大学政治経済学部政治経済学科教授
高橋 義文	三育学院短期大学学長
森本あんり	国際基督教大学教授
佐藤 司郎	東北学院大学教授
清水 正	青山学院高等部教諭
相澤 一	聖学院大学特任講師
佐野 正子	聖学院大学専任講師
久保島理恵	聖学院大学非常勤講師

パウル・ティリッヒ研究（1999年～2000年）

- (1) 1999年6月22日 「ティリッヒの聖霊論」
阿久戸光晴（聖学院大学助教授）
- (2) 1999年8月13日 「ティリッヒの聖霊論・神国論」
相澤 一（聖学院大学特任講師）
- (3) 1999年9月28日 「ティリッヒの聖霊論・三一論」
相澤 一（聖学院大学特任講師）
- (4) 1999年11月30日 「ティリッヒの歴史と神国論」
相澤 一（聖学院大学特任講師）
- (5) 2000年1月25日 「ティリッヒの歴史と神国論」
久保島理恵（聖学院大学大学院）
- (6) 2000年2月29日 「ティリッヒの歴史と神国論」
深井 智朗（聖学院大学総合研究所専任講師）

ジョン・ヒック研究（2000年～2001年）

- (7) 2000年5月1日 「神は多くの名前をもつ」
久保島理恵（聖学院大学大学院）
深井 智朗（聖学院大学総合研究所専任講師）
- (8) 2000年6月5日 「J・ヒックの宗教哲学」
間瀬 啓允（慶應義塾大学）
- (9) 2000年7月3日 「宗教多元主義への道」
深井 智朗（聖学院大学総合研究所専任講師）
- (10) 2000年7月3日 「メタファーとして読む神の受肉」

相澤 一（聖学院大学特任講師）

- (11) 2000年11月13日 「認識論と救済論——ヒック宗教的多元論の形成と内実」
小倉 和一（大阪工業大学短大講師）
- (12) 2001年1月15日 「宗教間対話の歴史とJ・ヒックの位置づけ」
星川 啓慈（大正大学教授）

ラインホルド・ニーバー研究（2001年～2002年）

- (13) 2001年6月5日 “Self and Dramas of History” 第1章～第6章
- (14) 2001年7月3日 “Self and Dramas of History” 第7章～第12章
- (15) 2001年10月2日 “Self and Dramas of History” 第13章～第18章
- (16) 2001年11月19日 “Self and Dramas of History” 第19章～第20章
- (17) 2001年12月11日 “Self and Dramas of History” 第21章～第23章
- (18) 2002年1月15日 『『ニーバーとその時代』と『R・ニーバー』の比較』
高橋 義文（三育学院短期大学学長）
- (19) 2002年2月18日 「ラインホルド・ニーバーとアメリカ」
鈴木 有郷（青山学院大学教授）
- (20) 2002年5月21日 「政策となった神学的ドグマ——アウグスティニアン
としてのラインホルド・ニーバー」
深井 智朗（聖学院大学総合研究所助教授）
- (21) 2002年12月2日 「神の像 (Imago Dei) —— 歴史意識と人間性をつなぐ
もの」
植木 献（国際基督教大学大学院生）
- (22) 2003年1月20日 「20年後のニーバー」
千葉 眞（国際基督教大学教授）

研究報告として『ラインホルド・ニーバー研究——2001年度組織神学センター活動報告書』（A5判，80頁，2002年3月31日）を発行した。

9 ヨーロッパ統合の理念とその実態研究（2001～2003年）

〈研究組織〉

大木 雅夫	聖学院大学大学院政治政策学研究科長・教授
廣渡 清吾	東京大学副学長総長特別補佐
滝沢 正	上智大学法学部国際関係法学科教授
中村 民雄	東京大学社会科学研究所教授
須網 隆夫	早稲田大学法学部教授
郡司 篤晃	聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科教授
有賀 貞	聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科教授
大藤 紀子	聖学院大学政治経済学部政治経済学科助教授
飯島 康夫	聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科助教授

- (1) 2001年4月 研究計画会議
- (2) 2001年5月19日 「EU法の現状と課題——憲法形成の時を迎えるEU——」
中村 民雄（東京大学社会科学研究所教授）
- (3) 2001年7月13日 「EU法研究の課題」
須網 隆夫（早稲田大学法学部教授）
- (4) 2001年9月28日 「フランスの法秩序における条約の地位とニュー・カレドニア」
大藤 紀子（聖学院大学政治経済学部政治経済学科助教授）
- (5) 2001年11月2日 「ヨーロッパの発展に対する私の関心と取組み」
滝沢 正（上智大学法学部国際関係法学科教授）
- (6) 2001年1月18日 「法文化としてのヨーロッパ」
大木 雅夫（聖学院大学大学院政治政策学科教授）
- (7) 2002年3月1日 「ヨーロッパ憲法秩序の形成：EU政体規範と各国憲法の相互作用」
中村 民雄（東京大学社会科学研究所教授）
- (8) 2002年5月24日 「大陸法とコモン・ロー——隣接の相の下における再説」

- 大木 雅夫（聖学院大学大学院政治政策学科教授）
- (9) 2002年7月5日 「連邦国家アメリカの形成」
有賀 貞（聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ
文化学研究科教授）
- (10) 2002年10月4日 「EUと社会保障」
郡司 篤晃（聖学院大学政治経済学部コミュニティ政
策学科教授）
- (11) 2002年1月10日 「EUの発展とその性格変容——「補完性の原則」と加盟
国法制度の自律性——」
須網 隆夫（早稲田大学法学部教授）

10 社会保障研究（第1期1999～2001年，第2期2002～2004年，
研究代表・郡司篤晃）

〈研究組織〉

郡司 篤晃	聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科教授
牛津 信忠	聖学院大学人文学部人間福祉学科・教授
府川 哲夫	人口社会保障研究所・主任研究員
大森 正博	城西大学経済学部・講師
福田 敬	東京大学医学部健康科学看護学科
橋本 廸夫	横浜国立大学医学部安全管理学教室
鈴木 洋児	聖学院大学人文学部人間福祉学科・教授
中村 磐男	聖学院大学人文学部人間福祉学科・教授
古谷野 亘	聖学院大学人文学部人間福祉学科・教授
丸山久美子	聖学院大学人文学部人間福祉学科・教授

- (1) 1999年5月31日 「社会保障改革における市場の役割」
郡司 篤晃（聖学院大学総合研究所教授）
- (2) 1999年12月7日 「医療福祉における市場の役割」
郡司 篤晃（聖学院大学総合研究所教授）
- (3) 2000年2月9日 「H・グレナスター教授，J・ルグラン教授の論文訳とコ

メント」

- 郡司 篤晃（聖学院大学総合研究所教授）
- (4) 2000年3月9日 「M・ナップ教授の論文訳と3教授へのコメント」
武川 正吾（東京大学助教授）
郡司 篤晃（聖学院大学総合研究所教授）
- (5) 2000年3月31日 国際シンポジウム「医療と福祉における市場の役割と
限界——イギリスの経験と日本の課題」（前掲）
- (6) 2000年11月24日 「市町村における政策評価——施策を中心とした評価手
法——」
武藤 博己（法政大学法学部政治学科教授）
- (7) 2000年12月18日 「ISO14001環境マネジメントシステムの認証登録につ
いて」
富田 信也（河北総合病院財団本部事務部長）
- (8) 2001年12月7日 「大都市部における高齢者の地域ケアシステムの構築：
現在の問題点と可能性」
天本 宏（医療法人財団天翁会）
- (9) 2001年12月20日 「大都市における高齢者ケア複合施設の可能性」
田上 豊（三菱総研）
- (10) 2002年11月11日 「ケア研究における質的研究の有効性」
星 直子（帝京大学看護研究所）

研究報告書として、“THE ROLE AND LIMITATIONS OF THE MARKET IN THE HEALTH AND WELFARE SYSTEM”（A4判，168頁，2003年3月30日）を出版した。

11 朝鮮における日本の植民地支配の終焉と大韓民国の建国期における民衆の戦争体験の調査研究（2002年10月～，研究代表，康 仁徳・小田川 興）

翰林大学校日本学研究所との共同研究。日本の植民地支配が朝鮮民族にもたらした負の遺産や解放後の朝鮮人の体験を洗い出し，同時代の日本人との葛藤

を掘り下げることを通して、日韓両国の未来志向の協力への土台をつくる学際的研究である。

〈研究組織〉

康 仁徳	聖学院総合研究所客員教授
小田川 興	聖学院大学総合研究所客員教授・元朝日新聞社編集委員
岩島 久夫	聖学院大学大学院・総合研究所客員教授
飯島 康夫	聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科助教授
木宮 正史	東京大学大学院総合文化研究科助教授
金 賛汀	在日朝鮮人・韓国人史研究家ノンフィクション作家

- (1) 2002年5月1日 「共同研究」の主題について
- (2) 2002年6月21日 「共同研究」の主題について
- (3) 2002年10月19日 「共同研究」の進め方
池 明観, 康 仁徳, 小田川 興
- (4) 2002年11月6日 「日本の朝鮮支配の本質——『内鮮一体』を中心に」
宮田 節子 (早稲田大学講師)
- (5) 2003年2月15日 「東アジアの平和と民主主義——日韓関係を軸に」
池 明観, 清田 治史, 康 仁徳, 小田川 興

なお小田川興客員教授は国際交流基金の助成を受けて研究を進めた。

また2002年11月9日, 10日に開催された「現代韓国朝鮮学会」(於:九州大)に参加。

12 人口減少期における自治体行政のあり方に関する調査・研究(2002年～)

人口減少が自治体行政にどのような変化をもたらすかまた自治体は政策転換をどのように図らなければならないか。人口動向アンケート調査に基づく実証的研究である。

また地方自治研究機構, 埼玉県自治体との共同研究。

〈研究組織〉

平 修久	聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科教授
富沢 賢治	聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科長
西浦 定継	明星大学理工学部土木工学科助教授
児玉 博昭	白鷗大学法学部専任講師
馬場 健	聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科専任講師
横田 光雄	財団法人地方自治研究機構参与
桑野 斉	財団法人地方自治研究機構研究員
金城 雄一	財団法人地方自治研究機構研究員
渡辺 邦雄	富士見市役所建設部
荒井 照男	北本市役所総務部企画財政課

- (1) 2002年4月26日 「研究計画について」
- (2) 2002年7月12日 「将来人口の推計」
- (3) 2002年10月29日 「人口減少アンケート集計について」
- (4) 2003年3月3日 『報告書』について」

研究報告書「人口減少期における自治体行政のあり方に関する調査報告書」
(A4判, 61頁, 2003年3月) を発行した。

(3) 聖学院大学総合研究所紀要総目次 (第16号～第26号, 1999～2002)

第16号 (1999)

序 大木英夫
ハーバーマスの「公共性」概念とその問題点 清水多吉
マックス・ウェーバーと日本近代化論

ヴォルフガング・シュベントカー (近藤正臣訳)

テーマとしての『国家と宗教』——内村・南原・大塚—— 柳父圀 近
福祉社会におけるコミュニティとアソシエーション 富沢賢治
ニーバー兄弟以降のキリスト教社会倫理 セオドア・ウェーバー (相澤一訳)
加藤仁平著『和魂漢才説』をめぐって 標宮子
日本の神霊語彙の源

——大野晋著『一語の辞典 神』(三省堂一九九七)を読む——

須山名保子
社会保障改革における市場の役割：日英比較研究から 郡司篤晃
ジョン・ロック著『コリント人への第一の手紙注解』(上)

相澤一・大澤麦・川添美央子 訳

近代世界とプロテスタンティズム

ヴォルフハルト・パネンベルクの視点 深井智朗
ジョン・ロック『寛容書簡』とその文脈 大澤麦

患者(エホバの証人)の意思に反して輸血をした医師らの法的責任(二)

——東京高裁判決平成一〇年二月九日について 市川昇
エホバの証人の排斥(除名)処分に対する司法審査 市川昇

現代日本の都市開発について

——都市化地域の活性化と市民参加のあり方—— 桑島裕
児童福祉分野におけるケースマネジメント導入に関する政策的研究

——長期入院児を事例として—— 竹瀬香織

Christian Social Ethics Since Reinhold and H. Richard Niebuhr

Theodore R. Weber

Unraveling the Mystery of Motivation in EFL Education

Dean Warren Sotherden

English Immersion Environment Emulation in Japan

Robert H. Long

第17号 (1999)

- 序——日本でクロムウェル生誕四百年を記念する
マックス・ウェーバーのロシア革命論
——ロシアにおける国家と市民——
グローバリゼーションと市民社会
——「市民社会」概念の系譜とその展開——
韓国における国家と市民社会
オリヴァー・クロムウェル生誕四百年記念シンポジウム
クロムウェルと現代 ——二十一世紀への視座——
- 大 木 英 夫
肥 前 栄 一
飯 坂 良 明
池 明 観
今 井 宏
澁 谷 浩
岩 井 淳
大 澤 麦
大 木 英 夫
- 日本思想史における『日本書紀』
——『日本書紀』注釈史をめぐる——
学術シンポジウム
都市型高齢福祉の課題と展望
- 渡 辺 正 人
岡 沢 憲 芙
佐々木 信 夫
村 田 幸 子
大 塚 健 司
斉 藤 弥 生
牛 津 信 忠
佐々木 信 夫
柳 父 章
- 自然と nature ——自然概念の考察——
ギリシャ教父と自然世界
——サクラメンタルな自然観と人間中心主義——
- 土 井 健 司

近代自然科学の成立事情 渡辺正雄
アメリカ社会の形成と「媒介機構」 柴田史子
吉野作造におけるデモクラシーとキリスト教 近藤勝彦
それは最後の旗印なのか？

——ヘーゲルにおける「近代世界とプロテスタンティズム」という問題——

深井智朗

『サヴォイ宣言』研究

——『ウェストミンスター信仰告白』との比較——（その1）

佐野正子

周辺ヨーロッパにおけるルーマン理論の受容 (圓岡偉男訳)

スキャンディナヴィアにおけるルーマン理論の受容 ヤン・I・ヨエンヒル

スロベニアにおけるルーマン理論の受容 イヴァン・ベルニク

ホルート・ロンツェビツ

ポルトガルにおけるルーマン理論の受容 ピエール・ギーベンティフ

Aliens and Citizens: Competing Models of Political Involvement

in Contemporary Christian Social Ethics David Oki Ahearn

Incidental Learning of Vocabulary and Comprehension

in Listening to a Lecture with Vocabulary Explanations Mayumi Tsubaki

The Amish Commitment To Pacifism Dean Warren Sotherden

1998年度政治政策学研究科修士論文テーマ一覧

第18号 (2000)

序 大木英夫

「市民社会」をどう問題にするか

——「市民社会と国家の役割の研究」第一期のまとめとして——

田中豊治

共同研究「市民社会と国家の役割の研究」

——これまでの研究成果とこれからの研究課題—— 大澤 麦

オランダにおけるキリスト教民主同盟の成り立ちと基本思想

ヘンドリック・ウォードリンク (谷口一郎訳)

古典としての『古事記』『日本書紀』

——「日本神話」の成立——

神野志隆 光

国際シンポジウム

南北朝鮮の現状を語る — 統一に向かう朝鮮半島 —

康 仁 徳
小田川 興
鐸 木 昌 之

ジョン・ロック著『コリント人への第一の手紙注解』（下）

相澤 一・大澤 麦・川添美央子・野呂有子訳

ウェストミンスター神学者会議をめぐって 松谷好明

現代技術と人工物環境 — 「安全性」をめぐって — 標 宣 男

統合に向かうヨーロッパ — ヨーロッパ連合の精神的基礎 —

フリードリヒ・ヴィルヘルム・グラーフ（松谷好明訳）

パウル・ティリッヒにおける創造と終末

— 「本質から実存へ」、そして「実存から本質へ」なのか? —

深 井 智 朗

『サヴォイ宣言』研究

— 『ウェストミンスター信仰告白』との比較（その2） 佐野正子

ラインホルド・ニーバー ラングドン・ギルキー（久保島理恵訳）

自然の神学 ラングトン・ギルキー（佐野正子訳）

教育政策における道德教育の変遷について 須藤澄夫

History and Basic Ideas of the Christian Democratic Party

in the Netherlands

Henk E. S. Woldring

Implementation of Vocabulary Learning Strategies in the Classroom

Mehran Sabet

Historical Motivations for Christian Education in Japan

Paul T. Shew

第19号（2000）

序

大 木 英 夫

アジアの民主主義と市民社会

石 塚 雅 彦

前近代日本の思想・宗教複合とキリスト教

黒 住 真

聖学院大学学術シンポジウム

東京圏の未来 さいたまの将来

中 邨 章

大 森 達 也
阪 本 克 己
大 田 弘 子
井 上 繁
平 修 久
小 林 良 彰
中 邨 章

NPOの現状と課題

——大学の役割との関わりで——

山 岡 義 典

ジョン・ロック著『コリント人への第二の手紙注解』

相澤 一・大澤 麦・川添美央子・野呂有子訳

伊豆大島の現状と新たな開発の方向性

平 修 久

初期ギリシアの詩と思想における自然観と倫理思想の接点

自然法思想の源流をめぐる一考察

佐 野 好 則

法の神学と法人類学

深 井 智 朗

動物に道徳的権利を？

——現代功利主義による動物への権利拡張論に対する一批判——

谷 口 隆一郎

An Introduction to Some Important Writings Relevant to EFL and ESL Education

Dean Warren Sotherden

第20号（2000）

序 ——奉仕者としての大学——

飯 坂 良 明

福祉国家と市民社会

——アマルティア・センと「第三の道」の批判——

毛 利 健 三

「大学とNPO」の現状と課題

——「地域を考える大学」の模索——

中 村 陽 一

内村鑑三における「自然の神」と「歴史の神」

梅 津 順 一

学問（Wissenschaft）としての神学

——近代以後の神学における「神学と自然科学」との関係をめぐる——

深 井 智 朗

太宰治とキリスト教

西 谷 博 之

ホーレス・ブッシュネル著『キリスト教養育』翻訳(その1) 森 田 美千代
 法実証主義をめぐる論争の神学的次元 深 井 智 朗
 ビザンツ、ロシアの都市史と市民社会 飯 島 康 夫
 環境に調和した大島再開発の意識調査 平 修 久
 馬 場 健

The Role of Discourse Analysis in EFL Education Dean Warren Sotherden
 Motivation for English Study in Japan From Junior High School
 and Into University: Its Transformational Cycle
 and Enhanced Description From Recent Motivation Research

Robert H. Long

Teaching as a Creative Process Paul Lyddon & David Gill

The Effects of the Lecture Outline and the Graphic Organizer
 upon EFL Lecture Listening Comprehension Mayumi Tsubaki

第21号 (2001)

序 —あらためて「近代とは何か」という問い— 大 木 英 夫
 ホップズと「市民社会論」

—個人・社会・国民国家— 田 中 浩

東中欧の民主化と市民社会論の新展開 川 原 彰

ジョン・ロック著『ローマ人への手紙注解』(上)
 相澤 一・大澤 麦・川添美央子・野呂有子訳

書評論文『教会—近代ヨーロッパの探究③』について
 —ピューリタニズム研究の視点から— 松 谷 好 明

国家あらずして、資本主義は存在しない!
 —法と力、国家と多国籍企業のグローバリゼーション—

クリストファー・ポールマン (大藤紀子訳)

人権に関する研究課題 (perspectives)
 クリストファー・ポールマン (大藤紀子訳)

現代寛容論の一断面
 —J・ウォードロンならびにS・メンダスの

J・ロック解釈を手がかりに— 大 澤 麦
 ホーレス・ブッシュネル著『キリスト教養育』第七章翻訳 森 田 美千代

パウル・ティリッヒの神学における存在論の基礎構造	相澤 一
子どもの人権をめぐる制度と実際	中島 明子
The Japanese Identity Crisis: Friend Or Foe Of English Language Teachers?	Dean Warren Sotherden
National Cultural Differences as Related to Organizations	Evert D. Osburn

第22号 (2001)

序 — 非暴力と無抵抗の間 —	飯坂 良明
イングランド革命と国家の変容	今井 宏
クエンティン・スキナーとイギリス革命	
— 『自由主義に先立つ自由』とその周辺 —	梅津 順一
EU政体規範 (constitution) 研究の現状と展望	中村民雄
リチャード・バクスターの「聖なるコモンウェルス論」	今関 恒夫
仏教の人間観をめぐって	菅野 覚明
ホーレス・ブッシュネル著『キリスト教養育』第一章翻訳	森田 美千代
法の神学的基礎付けと法の普遍妥当性の問題	深井 智朗
アルベルトゥス・マグヌスの都市論	
— アウクスブルクでの連続説教を中心に —	田中 史高
P・T・フォーサイスにおけるインディペンデンシーの影響	高 萬松
割引・減免制度からみた日本と諸外国の障害者の生活保障	吉田 滋
The Use of Japanese in English Oral Communication Classes	Mehran Sabet
Is Learning English Truly Advantageous For The Japanese?	Dean Warren Sotherden

Pioneer Pentecostal Missionaries in Japan	Paul Tsuchido Shew
2000年度修士論文テーマ一覧	
アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科	
政治政策学研究科	

第23号 (2001)

序 — 問題は社会的慣性である —	大木 英夫
イギリス市民社会の歴史的特質	関口 尚志

バブルを拒んだ経営者の魂

—大塚久雄の「歴史と現在」—

関口尚志

規範内部の「規範違反」

—サラン (Sarran) 事件判決 (CE, Ass., 30-10-1998) をめぐって—

大藤紀子

ジョン・ロック著『ローマ人への手紙注解』(中)

相澤 一・大澤 麦・川添美央子・野呂有子訳

聖学院大学学術シンポジウム

政令指定都市の課題と展望 —さいたま市の将来を考える—

松本英昭

佐々木信夫

中邨章

竹内佐和子

樋爪龍太郎

佐々木信夫

上田賢治

神道の間観

世界の財政再建手法に学ぶ

—中央政府と地方政府は何をすべきか—

永久寿夫

ホーレス・ブッシュネル著『キリスト教養育』第二章翻訳

森田美千代

ビスマルクをめぐる二人の神学者

—ハルナックとオーファーバック—

深井智朗

エーミル・ブルンナーにおける『正義』と『永遠』の再考

—大学の「新しい事態」を迎えて—

鈴木順一

Cross-Cultural Education And Intercultural Communication

Dean Warren Sotherden

Toward a Transformational-Transcendental Leadership Model

of Intercultural Communication

Evert D. Osburn

電子掲示板の政策立案情報源としての有効性について

平修久

A Comparison of the 1995 and 2001 Seigakuin University

English Education Needs Analysis Questionnaire Results

Evert D. Osburn

第23号別冊（2001）大塚久雄における「歴史と現代」特集号

エドムの斥候のあの美しい歌

——大塚久雄記念国際シンポジウムに寄せて——

大木英夫

シンポジウムの開催にあたって

高村幸治

バブルを拒んだ経営者の魂

——大塚久雄の「歴史と現代」——

関口尚志

比較近代化論 ——大塚久雄と西洋社会科学——

ヴォルフガング・シュヴェントカー（近藤正臣訳）

「前期性」の克服 ——大塚久雄と丸山眞男——

柳父圀近

大塚久雄と「新しい共同体」

梅津順一

国際シンポジウム・パネル・ディスカッション

大塚久雄における「歴史と現代」

関口尚志

ヴォルフガング・シュヴェントカー

柳父圀近

梅津順一

高村幸治

（通訳・近藤正臣）

一九二〇年以降のヨーロッパ社会科学へのウェーバーの影響

ヴォルフガング・シュヴェントカー（近藤正臣訳）

That Beautiful Song of an Edomite Watchman

Hideo Oki

Theories of Modernization in Comparison:

Ohtsuka Hisao and Western Social Sciences

Wolfgang Schwentker

Overcoming Pre-modernity

—— Ohtsuka Hisao and Maruyama Masao ——

Kunichika Yagyū

Ohtsuka Hisao and “A New Community”

Junichi Umetsu

Max Weber's Influence on the European Social Sciences since 1920

Wolfgang Schwentker

資料

国際シンポジウム・大塚久雄における「歴史と現代」アンケート結果

聖学院大学総合研究所紀要総目次（第16号～23号・1999年～2001年）

第24号 (2002)

序 —自由主義に先立つ自由—

大木英夫

日本市民社会思想と公共性

—内田市民社会論の原点とその自己克服—

野沢敏治

ヨーロッパ法の発展と他の法分野との関連

滝沢正

政策となる神学

—ラインホルド・ニーバーはアウグスティニアンか?—

深井智朗

聖学院大学学術シンポジウム

財政危機下の大都市経営を考える

井堀利宏

佐々木信夫

宮脇淳

小幡純子

鈴木宮夫

ホーレス・ブッシュネル著『キリスト教養育』第三章翻訳

森田美千代

ハンナ・アーレントにおけるデモクラシーの可能性

—ヨーロッパとアメリカの間で—

佐藤貴史

ジョナサン・エドワーズ『デイヴィッド・ブレイナード伝』における

クリスチャン・ライフの神学についての一考察

猪野正道

The Art Of Teaching English As A Foreign Language In Elementary School

Dean Warren Sotherden

協働社会の実現は可能か —藤枝市を例にして—

平修久

A Middle Road: The Exclusive Claims of Jesus and Universally

Accessible Salvation

Paul Tsuchido Shew

Britannic, Scottish and “Periwig” Orders On the Expression

of One’s Own Present World

Ariyuki Kondo

Teaching English Through Songs

Mehran Sabet

第25号 (2002)

- 序 — 国民社会・体制・政府 — 飯坂良明
三木清のマルクス受容 内田弘
大塚史学における「市民社会」
— 方法論的視座から — (その1) 田中豊治
連邦国家アメリカ合衆国の形成 有賀貞
大陸法とコモン・ロー
— 隣接の相の下における — 大木雅夫
ジョン・ロック著『ローマ人への手紙注解』(下)
相澤一・大澤麦・川添美央子・野呂有子訳
日本的キリスト教の問題点とその克服 (I) 濱田辰雄
ベネット・タイラー—ホーレス・ブッシュネル論争
— 『キリスト教養育』をめぐって — 森田美千代
P・T・フォーサイスにおける神義論 高萬松
世ノ所謂清和源氏ハ陽成源氏ニ非サル考
— 源朝臣経基の出自をめぐって — 赤坂恒明
リヒャルト・クローナーとラインホルド・ニーバーの自由論
久保島理恵
上尾市の市民活動について 内田雅幸
Creating An Environment That Is Conducive To Learning
Dean Warren Sotherden
都道府県の長期総合計画に関する一考察
— 今後のあり方をめぐって — 平修久
Servant Leadership in the Context of Japanese Culture Evert D. Osburn

第26号 (2002)

- 序 — ジョナサン・エドワーズ — 大木英夫
長谷川如是閑と「市民社会論」
— 国家主義とファシズムに抗して — 田中浩

「除名された者は市民社会の面において拒まれてはならない」

— プロテスタンティズムの問題としての「自発的結社」の問題 (1) —

深井智朗

大塚史学における「市民社会」

— 方法論的視座から — (その2)

田中豊治

ウェストミンスター信仰告白の歴史的、教理的注解序説 (その1)

松谷好明

EUの発展と法的性格の変容

— 「ECへの権限移譲」と「補完性の原則」 —

須網隆夫

イギリスの社会保障制度改革の意義と課題

— Primary Care Group のコミッショニング機能を中心に —

郡司篤晃

大都市制度と政令指定都市の課題

土岐寛

ホーレス・ブッシュネル著『キリスト教養育』第四章翻訳

森田美千代

フォーサイスと第一次世界大戦

高萬松

ラインホルド・ニーバーの神学における神の自由と人間の自由

久保島理恵

エミル・ブルンナーにおける教育論の現代性

— 「ファカルティ・ディベロップメント」の視点からみた —

鈴木順一

中世における歴史叙述

— グレゴリウス『歴史十巻』を中心として —

原田貴士

Public Theology and Political Economy in a Globalizing Era

Max L. Stackhouse

Cultural Foundations of Modern Citizenship

Stephen Kalberg

Civil Society, the State, and Religion in Contemporary America

Max L. Stackhouse

The Civic Sphere in America: its Cultural Origins and Impact

upon the Contemporary Political Culture

Stephen Kalberg

American Citizen and Japanese Shimin: A Comparison

Jun Furuya

Demystifying Learning

Dean Warren Sotherden

The Modern World and English Education: Use of Computer Software

Mayumi Tsubaki

人口減少期における自治体のあり方

平修久

荒井 照 男
桑野 齊

2001年度修士論文テーマ一覧

アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科
政治政策学研究科

第26号別冊（2002）戦後日米関係の回顧と将来の展望 特集号

グローバル化時代の日米関係

日米関係と戦争の記憶

東アジアの国際秩序と日米関係

国際シンポジウム

戦後日米関係の回顧と将来の展望

入江 昭
油井 大三郎
李 鍾元

入江 昭
油井 大三郎
李 鍾元
有賀 貞

2002年国際シンポジウム

戦後日米関係の回顧と将来の展望 アンケート結果
聖学院大学総合研究所活動報告（1999年～2002年）

(4) 総合研究所 Newsletter (No.9～12) 目次

◆ Vol.9-1 (1999)

巻頭言 聖学院大学のモットーとしての「敬虔と学問」 金子晴勇
分権時代における地方自治 森田 朗

実践一分権・行革への取り組み 町田潤一

Calling Asia 99: Conference Report C. A. Malone

松坂投手、そして「松坂世代」の新入生へ 西田善夫

学術シンポジウム報告「都市型高齢福祉の課題と展望」 総合研究所

Nominalismus und Moderne (Juergen Goldstein) 深井智朗

◆ Vol.9-2 (1999)

巻頭言 目線に立って 寺田正義

テーマとしての「国家と宗教」 柳父圀近

シカゴ大学ディビニティ・スクールとギルキー教授 永見 勇

イギリスの社会保障改革の評価について 郡司篤晃

オランダの IPM (Integrated Plant Management, 総合病虫害管理) を支えるもの 志田俊郎

A Stylistic Analysis and Interpretation of Wilfred Owen's Poem : *Futility*

Dean Sotherden

エマニュエル・カントにおける自然神学の問題 深井智朗

「自然」についての学際的研究開始 総合研究所

紛争の和解を創り出す政治思想について (セオドア・ウェーバー教授の講演報告) 総合研究所

新しい研究プロジェクトの開始 (自然, 地域, 福祉) 総合研究所

康仁徳韓国統一部前長官客員教授に就任 総合研究所

◆ Vol.9-3 (1999)

巻頭言 「生命の質」への問い 本田和子

韓国から見た日本 日本から見た韓国 池 明観

ハバーマスにおける公共性の概念と市民社会 清水多吉

トクヴィルとデモクラシー 田中治男

昨今のアメリカ・キリスト教倫理学会の動向 David Ahearn

Evaluating English Language Teaching Software C. A. Malone

シドニー・オリンピックを楽しもう 西田善夫

The Gnadenhutten Massacre Dean Sotherden

自治体リーダー養成講座第6回「これからの都市型高齢福祉を問う」報告 総合研究所

国際シンポジウム「南北朝鮮の現状を語る」開催迫る 総合研究所

国際シンポジウム「医療と福祉における市場の役割と限界」開催 総合研究所

◆ Vol.9-4 (1999)

巻頭言 生命操作の背後にあるもの 熊澤義宣

大都市の行政制度——北アメリカを中心に 中邨 章

21世紀の都市開発を目指して 原田敬美

21世紀の外国語教育改革の目指すもの 小池生男

昨今「教会と社会」についてのエキュメニカル思想概観1962-1999 Paul Abrecht

Extensive Reading: Implementation and Research in a Japanese Senior High School Simon Evans

JALT大会は宝の山 David Magnusson

Internet Edutainment Robert Hughes

15年目の里帰り 柴田史子

A Caring World (OECD) 牛津信忠

コンピュータ教育の研究 井合 澄

国際シンポジウム「朝鮮半島の現状を語る」報告 総合研究所

SLIによる新入生のための英語集中講座開催 総合研究所

◆ Vol.10-1 (2000)

巻頭言 学問の世界に遊ぶこと 澁谷 浩

「医療と福祉における市場の役割と限界」報告 郡司篤晃

ウォードリンク「市民社会と国家」研究報告 谷口隆一郎

ジョン・ヒック研究はじまる 深井智朗

ウェストミンスター神学会議について 松谷好明

Metamorphosen des modernen Protestantismus (Falk Wagner) 深井智朗

研究所活動計画2000 総合研究所

◆ Vol.10-2 (2000)

巻頭言 新しい日本文化学の課題 鵜沼裕子

ハイデルベルクにおけるアングロサクソン研究の伝統 深井智朗

東京圏の未来, さいたまの将来 大森達也

Report on the 2000 Seigakuin "Teaching for Proficiency" Workshop Evert D.
Osburn

公共的理由と公共善 大澤 麦

地域NPOのネット・ワークとディレクターづくりについて 梅津順一

ケンブリッジの光と影 菊地 順

God's Wisdom: Toward a Theology of Education (Peter C. Hodgson) 安酸敏眞

シドニー・オリンピックの放送 西田善夫

「イギリス・デモクラシーの擁護者A・D・リンゼイ」の合評会開催 総合研
究所

ヒック研究 総合研究所

◆ Vol.10-3 (2000)

巻頭言 生きる厳しさを伝えて 阿久戸光晴

勝海舟と福沢諭吉のアジア観の対比 河上民雄

Stackhouse, Public Theology and Political Economy をめぐって 大澤 麦

広域行政と大都市制度 馬場 健

現代技術と人工物環境——安全性をめぐって—— 標 宣男

フランスの子どもたち——ECOLE FREINETの教育—— 梅津迪子

Dictionary of Presbyterian & Reformed Tradition in America 松谷好明

新刊紹介 (クザーヌス, 近代キリスト者の信仰と倫理, パウル・ティリッヒ研
究2) 出版会

◆ Vol.10-4 (2000)

巻頭言 転換期に立つ英語教育 山本 昂

Speaking Tests — Cambridge and other Models Simon Himbury

グローバリゼーションと日本文化 濱田辰雄

『教会・近代ヨーロッパの探求』合評会 松谷好明

伊豆大島の現状把握と調査計画について 馬場 健

内村鑑三における「自然の神」と「歴史の神」 深井智朗

「地域とアソシエーション」研究——中間展望 梅津順一

中東欧の民主化と Civil Society 論の新展開 大澤 麦

都市自治体の人事行政 平 修久

市町村財政の現状と課題 平 修久

海外特別研究期間報告 安酸敏眞

シドニー・オリンピック 西田善夫

Community Works — The Revival of Civil Society in America — (E. J. Jr.
Dionne Ed.) 梅津順一

第7回自治体リーダー養成講座報告 総合研究所

国際シンポ「『市民』とは何か」報告 総合研究所

ジョン・ヒック研究第三回報告 総合研究所

SLIクリスマス会報告 総合研究所

◆ Vol.10-5 (2000)

巻頭言 コミュニティをつくる 富沢賢治

和解・協力過程に入った南北関係 康 仁徳

高齢者の自立 (ADL) と体力 鈴木洋児

日本自然主義文学をめぐって 黒木 章

生命をどこまで操作できるか 標 宣男

イギリス風景画における自然の表現 標 宣男

大島町住民に対する意識調査の骨子について 馬場 健

神道の人間観 濱田辰雄

福祉国家と市民社会 大澤 麦

イングランド革命と国家の変容 大澤 麦

宗教間対話の歴史におけるJ. ヒックの位置づけ 深井智朗

Report on “Researching Extensive Reading,” JALT 2000, Nov.4 Simon Evans

加藤学園を訪問して 富沢寿美子

環境問題における自由主義人間観の考察 佐藤貴史
海外特別研究期間報告 防腐剤としての伝統 村上公久
海外特別研究期間報告 アイルランド人気質と宗教事情 丸山久美子
City Walls- The Urban Enceinte in global Perspective, Cambridge 飯島康夫
第4回埼玉都市政策研究会 開催 総合研究所
推薦入学者英語集中講座開催される 総合研究所

◆ Vol.11-1 (2001)

巻頭言 わが国におけるアメリカ・ヨーロッパ文化研究の課題 古屋安雄
イギリス市民社会の歴史的特質 梅津順一
地方分権と政策法務 平 修久
EU 法研究の現状と課題 飯島康夫
Workshop 報告 Dean Warren Sotherden
境界とアイデンティティ クリストファー・ポールマン
ワールドカップの舞台造り 西田善夫
ラインホールド・ニーバー研究始まる 深井智朗
日本のEU政策に向けて 大藤紀子
リチャード・バクスターの Holy Commonwealth について 高 萬松
『自己と歴史のドラマ』 久保島理恵
学術シンポジウム報告 総合研究所

◆ Vol.11-2 (2001)

巻頭言 「『幸福』についての断想」 飯坂良明
21世紀の日韓関係——新しいパートナーシップ 康 仁徳
地方自治体の新税検討について 平 修久
神学者としてのオットー・ディックス？ 深井智朗
機能障害を持つ身体的な虚弱者及び健常高齢者の日常生活活動量, QQLと健康体力の研究 鈴木洋児
ミッド・テューダー期のイングランド宗教改革における教区社会 高 萬松
歌ってごらん 鈴木順一
The Second Disruption 松谷好明
国際シンポジウム報告 総合研究所

◆ Vol.11-3 (2001)

巻頭言「大学の危機についての安全論的考察」 標 宣男
マックス・ヴェーバー理論における「市民社会」の問題 田中豊治
ワールドカップサッカー間近 西田善夫
アドルフ・フォン・ハルナック再評価の動き 深井智朗
社会保障研究会の新しい研究課題について 総合研究所
自治体リーダー養成講座のお知らせ 総合研究所

◆ Vol.11-4 (2001)

巻頭言「モフセン・マフマルバフにおける共通言語の基底」 牛津信忠
「道」(Tao)をめぐる自然観 稲田敦子
アメリカの市民社会と国家地域における成人保護サービス 増田公香
EU法研究の課題 大藤紀子
ブリンガーからピューリタニズムへ(三川栄二) 高 萬松
響きの広がり 鈴木順一
「こんにちは！コミュニティ活動支援センター・埼玉支部です」 富沢賢治
海外新刊書紹介 Theological Essays on the Love of God, 松谷好明
総合研究所ニュース 国際シンポジウム報告 総合研究所

◆ Vol.12-1 (2002)

巻頭言「人間学研究室の創設にあたって」 金子晴勇
「これからの英語教育の方向——園児から大学生までの一貫教育——」 田辺洋
二

Immersion Education And Content-Based Instruction: Overview and Practical
Applications Workshop Kent Hill

ロバート・A・M・スターン《オルストム図書館》 近藤存志
教員活動報告書 大澤 麦・深井智朗

◆ Vol.12-2 (2002)

巻頭言「重荷を負い合う」 菊池 順
「なぜ『児童英語』か——言語習得理論の観点から」 江川美知子

日韓関係の足跡——国家関係から市民交流へ 小田川興
海外新刊紹介 松谷好明
日本の近代化の問題 黒木 章
教員活動報告 2001年度 E. オズバーン・D. W. サザデン

◆ Vol.12-3 (2002)

巻頭言「教育改革の行方」 西本憲弘
地域通貨について 柴田武男
政令市の行政区について 伊藤和良
20年後のニーバー 深井智朗
人口減少期における自治体行政のあり方に関する調査研究 平 修久
Sabbatarianismの現代的定義 高 萬松
研究所ニュース カウンセリング研究センター

◆ Vol.12-4 (2002)

巻頭言「研究の周辺」 志田俊郎
大都市部における高齢者ケア複合施設の可能性 田上 豊
日韓「距離の近さ」と課題を実感 小田川興
二人の長老派聖職者の自伝からみた17世紀半ばのイングランド北西部二州の
長老派の状況 高 萬松
研究所ニュース 「東アジアの平和と民主主義」 アンケート報告
研究所ニュース 出版会新刊案内

◆ Vol.12-5 (2002)

巻頭言「英語教育の視点から『構造改革特区』を見る」 寺田正義
日本の朝鮮政策の本質 宮田節子
海外新刊紹介 相澤 一
ウィリアム・エームズの生涯と神学 高 萬松

Ⅲ ランゲージ・インスティテュート (SLI)

総合研究所に、研究成果の公開として、学生および一般社会人を対象にした、語学研修機関、ランゲージ・インスティテュート (SLI) が設置されている。大学キャンパス、駒込エリア、栄光ゼミナール大宮校、などに次のようなクラスを開講している。2002年度9月には、さいたま新都心彩の国8番館でのクラスを開講した。これらのクラスは、10週間を一期として、4月、9月、1月に各期を開始する。また、聖学院大学海外研修、推薦入学予定者英語集中講座、聖学院小学校、女子聖学院・男子聖学院のホームステイ・プログラム、聖学院幼稚園、みどり幼稚園に講師を派遣している。とくに、聖学院小学校では、カリキュラム、教材の作成も担当している。これまでに、下記のクラスを開講した。

① 英会話クラス

初級クラスから上級のクラスまで。Let's Talk (初級), More Talk (中級), Total Talk (上級), Travel Talk (旅の英会話・中級程度) のクラスで、日常会話から、テーマに基づいてディスカッションできる英語力を養成する。

② 聖学院高校生英会話クラス

聖学院高校、女子聖学院高校の生徒を対象に英会話を楽しむことを目的としている。

③ TOEFL クラス

英語圏の大学に留学するために必要なTOEFLで、173点(ペーパー・ベース500点)以上、大学院213点(ペーパー・ベース550点)以上を獲得できるように、reading, grammar, listening, vocabulary の学習をする。

④ TOEIC クラス

企業で重視されている英語検定試験の準備として、テキストを使い reading, grammar, listening, vocabulary の力をつける。

⑤ フランス語会話クラス

フランス語をペアラーニング・システムで効果的に学ぶクラス。会話を中心にフランス語の発音に習熟するよう指導する。

⑥ 推薦入学予定者英語集中講座

聖学院大学の推薦入学予定者のために、ネイティブ・スピーカーから集中で英会話とコンピューターの教授を受ける講座である。

⑦ 海外研修事前準備講習

夏期・春期に4週間アメリカの提携大学ほか、オーストラリア、イギリスで語学研修をする学生、また、ホームステイをする学生を対象に、SLI独自のテキストを使い、現地の文化やマナーを英語で学ぶ。

SLI 受講者数比較
Number of Students
1999～2002

	Day	Time	Class	Teacher	99	99	00	00	01	01	01	02	02	02	02	
					1	2	3	6	1	2	3	1	2	3		
大学キャンパス University Campus	Mon		TOEFL	Sabet	7	3	6	—	—	—	—	—	—	—	—	
	Mon		TOEFL	Long	—	—	7	4	2	0	0	—	—	—	—	
	Mon	15:00	TOEFL	Kahl	—	—	—	—	—	—	—	4	2	1	—	
	Mon		TOTAL	Ashley	2	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	
	Mon	8:40	MORE	Sotherden	5	6	4	5	6	5	9	5	6	5	8	
	Mon		TOEIC	Sotherden	2	3	2	3	3	—	—	—	—	—	—	
	Mon	13:00	LET'S	Wayman	—	—	—	—	—	—	—	—	6	—	—	
	Mon	13:00	LET'S	Blofeld-Watson	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6	10	
	Mon	15:00	MORE	Wayman	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	
	Mon	15:00	MORE	Blofeld-Watson	—	—	—	—	—	—	—	—	2	1	2	
	Tue	17:00	TOTAL	Magnusson	3	2	3	4	4	3	5	4	5	4	3	3
	Wed	10:30	TOTAL	Ashley	—	—	—	7	7	6	6	6	4	6	6	6
	Thu	13:30	MORE	Sotherden	5	2	3	6	4	4	7	7	9	7	9	8
	Thu	13:30	LET'S	Kahl	—	—	—	—	—	—	5	7	5	9	9	9
	Sat	13:30	MORE	Ashley	9	7	5	5	10	8	9	8	9	9	9	9
	Thu		LET'S	Hagen	—	—	—	6	10	7	—	—	—	—	—	—
	Thu		TOEFL	Hughes	—	—	—	4	2	1	0	0	—	—	—	—
	Fri		TOTAL	Ashley	4	7	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—

	Sat	10:20	TOTAL	Kahl	-	-	-	-	-	-	10	7	3	2	3	
	Sat	15:10	TOTAL	Ashley	2	3	3	1	1	2	3	7	4	3	4	4
	Sat		TOTAL	Kroehler	8	7	8	8	6	6	-	-	-	-	-	-
	Sat	13:30	TRAVEL	Sotherden	6	6	5	5	4	4	4	7	3	4	6	7
	Sat	13:30	LET'S	Kahl	-	-	-	-	-	-	7	8	10	6	6	6
	Sat		LET'S	Hagen	-	-	-	-	8	5	-	-	-	-	-	-
	Sat	15:15	TOEIC	Kahl	-	-	-	-	-	-	1	5	3	6	3	4
	Tue	10:30	MORE	Sotherden	7	7	7	7	5	5	6	6	4	7	11	6
	Tue	11:00	LET'S	Kahl	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	9	7
	Tue	13:00	TOTAL	Kahl	-	-	-	-	-	-	4	4	6	4	7	8
	Tue	16:00	High School	Kahl	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	7	7
	Tue		TOTAL	Ehrhardt	3	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Tue		TOTAL	Ehrhardt	3	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Wed	10:20	MORE	Kahl	-	-	-	-	-	-	7	8	9	10	10	9
	Wed	13:00	TOTAL	Kahl	-	-	-	-	-	-	2	4	3	6	8	4
	Wed		TOTAL	Kroehler	6	4	4	5	5	5	-	-	-	-	-	-
	Wed		TOTAL	Kroehler	3	5	5	5	5	5	-	-	-	-	-	-
	Wed		MORE	Hagen	4	5	6	5	6	7	-	-	-	-	-	-
	Thu	13:30	LET'S	Wayman	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-
	Thu	16:00	High School	Wayman	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-
	Thu	18:00	LET'S	Wayman	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-
	Thu	1330	LET'S	Blofeld-Watson	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	9

駒込エリア
Konnagome
Area

IV 聖学院大学出版会

(1) 目的と理念

聖学院大学は、教育・研究活動を学外に拡げ、その学術・文化的使命を果たすために、1991年4月に「聖学院大学出版会」を設立した。1992年4月には、東京大学出版会、法政大学出版局、慶應義塾大学出版会など26大学出版会(2002年2月現在)によって構成される「大学出版部協会」に加盟した。

聖学院大学出版会は次のような出版活動をする。

- ①聖学院は、プロテスタント・キリスト教の精神と文化の伝統を継承する学校であり、また、日本のキリスト教諸大学に、現在、大学出版部を設置している大学がないことに鑑み、キリスト教文化、キリスト教教育の発展に寄与することを考慮する。
- ②出版会は「聖学院大学総合研究所」に位置し、学校法人聖学院の諸学校との精神的、財政的な一体性の中にある。それぞれの学校の教育との密接な関連、協力の関係を持ち、聖学院全体の一貫教育を視野にいれながら、出版活動を行う。
- ③「聖学院大学の理念」に基づいた出版活動を行う。すなわち、「自由と敬虔の学風によって真理を探究し、霊的次元の成熟を柱とした全体的な人間形成に努め、人類世界の進展に寄与しようとする」、また、「真剣な学術研究と生きた教育、霊的強化とをとおして、プロテスタント・キリスト教の現代文化に対する責任という世界史的課題を大学形成に寄与しようとする」、さらに「開かれた大学として、プロテスタント・キリスト教の精神をもって国際化した時代と激動する社会、およびその地域の問題にも積極的に取り組み、創造的な活動をすることによって、キリスト教的、文化的特色を発揮することを期する」出版活動である。

また、次のような出版物を刊行する。

- ①学校のカリキュラムに即した講義テキスト。特にキリスト教学校の「聖書科」教科書。
- ②研究成果としての学術書。
- ③University Extension の趣旨に基づく、学術的啓蒙書。
- ④学生・生徒の人生の伴侶となりうるような教科書。
- ⑤キリスト教思想・評論などの専門書。

(2) 出版物 (発行日順)

- 1999年4月12日 W・パネンベルク著／深井智朗訳『近代世界とキリスト教』
- 1999年9月25日 後藤兼一『オフィス業務改革』
- 1999年9月30日 P・ティリッヒ著／大木英夫・相澤一訳『宗教の未来』
- 1999年10月20日 大澤麦・澁谷浩編訳『デモクラシーにおける討論の生誕』
- 1999年10月28日 田村秀夫編著『クロムウェルとイギリス革命』
- 2000年3月10日 鶴沼裕子『近代日本キリスト者の信仰と倫理』
- 2000年6月30日 組織神学研究所編『パウル・ティリッヒ研究2』
- 2000年9月28日 渡邊守道『ニコラウス・クザーヌス』
- 2000年9月26日 深井智朗『政治神学再考』
- 2001年2月10日 A・D・リンゼイ著／古賀敬太・藤井哲郎訳『オックスフォード・チャペル講話』
- 2001年2月20日 F・W・グラーフ著／深井智朗・安酸敏眞編訳『トレルチとドイツ文化プロテスタンティズム』
- 2001年2月20日 古屋安雄『日本の将来とキリスト教』
- 2001年3月10日 A・D・リンゼイ著／永岡薫・山本俊樹・佐野正子訳『わたしはデモクラシーを信じる』
- 2001年3月20日 梅津順一『「文明日本」と「市民的主体」』聖学院大学研究叢書1
- 2001年3月20日 安酸敏眞『歴史と探求』聖学院大学研究叢書2
- 2001年4月10日 澁谷浩『思いやりの主イエスとともに』
- 2001年10月26日 金子晴勇『近代人の宿命とキリスト教』
- 2001年11月30日 Q・スキナー著／梅津順一訳『自由主義に先立つ自由』
- 2001年12月10日 郡司篤晃編『INACTIVITY, HEALTH and AGING』

- 2001年12月20日 深井智朗編『ヴェーバー・トレルチ・イエリネック』
- 2002年3月26日 金子晴勇『エラスムスとルター』聖学院大学研究叢書3
- 2002年6月29日 R・ニーバー著／大木英夫・深井智朗訳『アメリカ史のアイロニー』
- 2003年1月24日 P・ヘルム著／松谷好明訳『カルヴァンとカルヴァン主義者たち』
- 2003年2月24日 L・ガルスト著／小貫山信夫訳『チャールズ・E・ガルスト』
- 2003年3月20日 J・ミルトン著／新井明・野呂有子訳『イングランド国民のための第一弁護論および第二弁護論』

V 自治体リーダー養成講座

1999年度 第6回「これからの都市型高齢福祉を問う」

- 9月8日(水) 開講式 大木 英夫(聖学院理事長)・オリエンテーション
基調講義 開講講義「都市型高齢福祉とデモクラシー」 大木 英夫
講義Ⅰ「都市・分権・高齢社会と自治体行政」 中邨 章
(明治大学教授)
講義Ⅱ「分権時代の自治体像・職員像」 佐々木信夫(本学
客員教授)
- 9月9日(木) 講義Ⅲ「都市型高齢社会と自治体福祉財政」 城戸 喜子(慶
應大学教授)
専門講義 講義Ⅳ「介護保険の実施と市町村の課題」 佐々木恒夫(日本
社会事業大学教授)
- 9月10日(金) 講義Ⅴ「政策ディベートの進め方」 佐々木信夫(上掲)
専門演習Ⅰ 予備討議A, B 課題別・グループ別
本番討議A, B 課題別・グループ別
全体講評及び政策ディベートの総括
交流・懇親会
- 9月16日(木) ゼミA「高齢社会と保健医療福祉」 古谷 野亘(本学教授)
専門演習Ⅱ ゼミB「高齢社会とまちづくり」 平 修久(富士総合研究
所主任研究員)
ゼミC「高齢社会と産業の活性化」 大森 達也(本学助教授)
ゼミD「高齢社会と民間活力」 富沢 賢治(本学総合研究所
教授)
ゼミE「高齢社会と地域福祉圏」 牛津 信忠(本学教授)
- 9月17日(金) 講義Ⅵ「シルバー・デモクラシー」 飯坂 良明(本学大学院
総括講義 長)
講義Ⅶ「実践!自治体改革への挑戦」 宮越 馨(上越市長)

パネルディスカッション「都市型高齢福祉の課題と展望」

コーディネータ：佐々木信夫（上掲）

パネリスト：斉藤 弥生（大阪外国語大学助教授）

神成 裕（社会福祉法人 元気村理事長）

別所 清子（大宮市保健福祉部次長）

飯坂 良明（上掲）

2000年度 第7回「安全で快適なまちづくりを考える——どうすれば彩の国の魅力は高まるか——」

- 9月12日(火) 開講講演「まちづくりとデモクラシー」 飯坂 良明（本学
基調講義 学長・大学院長）
オリエンテーション
講義Ⅰ「分権時代のまちづくり」 大森 彌（千葉大学教授）
講義Ⅱ「まちづくり行政の実績と課題」 中邨 章（本学客
員教授）
- 9月13日(水) 講義Ⅲ「イギリスの道路行政」 武藤 博己（法政大学教授）
専門講義 講義Ⅳ「生活者の視点から見たまちづくり」 斉藤 睦（地
域総合研究所首席研究員）
- 9月14日(木) 講義Ⅴ「政策ディベートの進め方」 桑原 英明（常磐大学助
専門演習Ⅰ 教授）
予備討議A, B 課題別・グループ別 馬場 健（本学専任講
師）
本番討議A, B 課題別・グループ別 馬場 健（上掲）
全体講評及び政策ディベートの総括 桑原 英明（上掲）
交流・懇親会
- 9月21日(木) ゼミA「まちづくりと高齢者」 古谷野 亘（本学教授）
専門演習Ⅱ ゼミB「まちづくりと都市環境整備」 平 修久（本学教授）
ゼミC「まちづくりと産業の活性化」 大森 達也（本学助教
授）
ゼミD「まちづくりと民間活力」 富沢 賢治（本学教授）

ゼミE「まちづくりと地域福祉」 牛津 信忠（本学教授）
特別講義「まちづくりと自治体プロの条件」 佐々木信夫（本学客員教授）

9月22日（金） 講義VI「都市計画行政の現状と課題」 北原 鉄也（愛媛大学
総括講義 教授）

講義VII「実践！魅力ある彩の国をめざして」 鈴木 宮夫（埼玉
県副知事）

パネルディスカッション「安全で快適なまちづくり」

コーディネータ：中邨 章（本学客員教授）

パネリスト：

北原 鉄也（上掲）

大塚 博（上尾市都市整備部大規模道路対策室室長）

東郷 尚武（東京市政調査会常務理事）

西川 正（さいたまNPOセンター事務局長）

小沼 博之（大宮西口共同ビル（株）代表取締役）

2001年度 第8回『「自治体経営」新時代』

9月12日（水） 開講講演 大木英夫（聖学院院長・総合研究所長）
基調講義 オリエンテーション

講義I「自治体財政運営の新しい展開」 黒川 和美（法政大
学教授）

講義II「自治体の構造改革」 佐々木信夫（本学客員教授）

9月13日（木） 講義III「財政統制ーバランスシート・外部監査」 米田 正巳
専門講義 （ナカチ経営研究所主席研究員）

講義IV「自治体政策評価の方法」 星野 芳昭（日本能率協会
コンサルティング）

9月14日（金） 講義V「政策ディベートの進め方」 佐々木信夫（本学客員教
専門演習I 授）

演習「政策ディベートの実践」 佐々木信夫（上掲）

馬場 健（本学専任講師）

講評及び政策ディベートの総括 佐々木信夫（上掲）

交流・懇親会

9月20日（木） 専門演習Ⅱ ゼミA「社会経済状況の変化とまちづくり」 平 修久（本学教授）

ゼミB「競争時代における自治体の役割」 大森 達也（本学助教授）

ゼミC「産業開発と自治体経営」 瀬名 浩一（本学助教授）

ゼミD「自治体経営の資金効率」 柴田 武男（本学助教授）

ゼミE「高齢社会における自治体の役割」 古谷 野亘（本学教授）

9月21日（金） 総括講義 講義VI「自治体戦略とベンチマーキング」 大住莊四郎（新潟大学教授）

講義VII「自治体経営——私の新たな挑戦」 清水聖義（群馬県太田市市長）

パネルディスカッション

「自治体経営の新しい方向を探る」

コーディネータ：中邨 章（本学客員教授）

パネリスト：佐々木 浩（総務省自治行政局行政課理事官）

磯貝 秀俊（朝日新聞政治部記者）

世古 一穂（NPO 研修・情報センター代表理事）

2002年度 第9回「自治体の政策最前線」

7月24日（水） 開講講演 大木英夫（聖学院院長・総合研究所長）

基調講義 オリエンテーション

講義I「自治体の税財政のあり方」 宮脇 淳（北海道大学教授）

講義II「自治体政策・改革の最前線」 佐々木信夫（本学客員教授）

7月25日（木） 専門講義 講義III「電子政府の最前線」 木谷正道（東京都総務局IT推進室長）

- 7月26日(金) 講義Ⅳ「政策法務の最前線」 北村 喜宣(上智大学教授)
 ゼミA「自治体の政策法務」 山口 道昭(立正大学教授)
 専門演習Ⅰ ゼミB「IT推進の実践法」 馬場 健(本学専任講師)
 ゼミC「政策評価の最前線」 平 信久(本学教授)
 ゼミD「公共事業の新展開」 小松 史郎(三菱総合研究所研究部長)
 ゼミE「ペイオフと資金管理」 柴田 武男(本学助教授)
- 7月30日(木) 講義Ⅴ「政策ディベートの進め方」 佐々木信夫(上掲)
 専門演習Ⅱ 演習「政策ディベートの実践」 佐々木信夫(上掲)
 馬場 健(上掲)
 講評及び政策ディベートの総括 佐々木信夫(上掲)
- 7月31日(金) 講義Ⅵ「ガバナンスとは何か」 中邨 章(本学客員教授)
 総括講義 講義Ⅶ「私の自治体経営最前線」 土屋 正忠(武蔵野市長)
 パネルディスカッション
 「自治体の政策最前線をめぐって」
 コーディネータ：佐々木信夫(上掲)
 パネリスト：伊藤 章雄(東京都公園協会常務理事)
 渋川 智明(毎日新聞社会部編集委員)
 清原 慶子(東京工科大学教授)